

野菜求め賑わう

～ふれあい市オープン～

女性部みなみ支部田舎館班のふれあい部会（中村久子部会長）が運営する「ふれあい市」が4月25日にオープンしました。

りんごやねぎなどの農作物や、加工部会が製造した豆腐などが店内に並び、商品を購入したお客様に凍み豆腐をプレゼントしました。

中村部会長は「今年もこうしてお客様とふれあうことができ嬉しい。収穫が本格化するとより多くの農作物が並ぶので、是非お越しください」と話しました。



お客様とふれあう部会員（右）

冬越でじっくり熟成

～「かまくらりんご」掘り起し～

JA直売所「あっぷるはうす・おふくろの店」の会員で構成するかまくらりんごの会（工藤朋恵会長）は4月21日、黒石市沖揚平地区で雪の中に埋め冬越しさせたりんごを掘り起こす作業を行いました。

工藤会長は「今年も甘くてみずみずしい『かまくらりんご』ができた。このおいしさを多くの方に味わってほしい」と笑顔で話しました。24日の即売会では、買い求めるお客様で賑わいました。



「かまくらりんご」と笑顔の会員

りんご苗木を生産者へ配布

～農業振興計画の助成事業～

当JAは、4月中旬から各地区でりんご苗木の配布を行いました。地域農業生産基盤強化のため、助成事業を展開しており、令和2年度のでりんご苗木助成の申し込みは639件、配布本数は約1万1000本となりました。

生産者は「需要が高いりんごの品種を増やすため、毎年申し込んでいる。助成事業があると安価に苗木が購入できとても助かるので、今後も続けてほしい」と話しました。



りんご苗木を受け取る生産者（右）

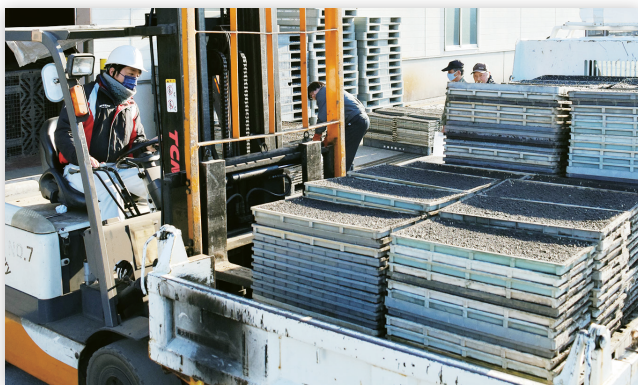
生産者へ良質な苗を

～水稻苗配布開始～

田舎館基幹グリーンセンターは、4月9日から水稻苗の配布を開始しました。

4月11日、数ミリ程度出芽した状態の苗を、JA職員が生産者のトラックに積み込む作業を行いました。

生産者は「苗の準備には人手や機械が必要になるので、JAの配布はとても助かる。今後は温度管理などに注意し、健康な苗を育てたい」と話しました。



水稻苗をトラックへ積み込む職員